二通

離任の辞

ついに離任の日を迎えてしまったなぁ。今日は退職予定者のみんなもわざわざ出てきてくれてありがとう。

着任時に要望した「一人ひとりがよく考えて共に前へ」であるが、要望した理由は着任前に中隊を観察して思った２つの事を良くしたいなぁという思いで要望した。

一つが受動的で指示がないと動こうとしない雰囲気が一部にあった点、二つ目が特技ごと、小隊ごと、営外者のみ、営内者のみと垣根があった点であり、今では自ら今、何をすべきかを考えて行動する隊員に成長してくれ、何かあれば特技、小隊の垣根を超えて、ともに力を合わせて難局を乗り越える成長に嬉しさを感じる。隊員みんなのどんなに小さい成長でも中隊長は嬉しかったし、生き甲斐だった。

この先、任期満了で退職する人も自衛官として次世代を全うする人もみんなに言いたいのは、困っても前へ進むこと。前へ進まないと何も起こらない。どんなに辛い時期がこの先訪れようと「前へ」

中隊長は毎年、桜の花を見ると大切な人を思い出す。あと少ししたら桜も開花し、一中隊の大切な仲間を思い出して前を向くだろう。

最後にみんなと出会えてほんとうに幸せだった。みんなのご家族にも、今まで任務に対してご協力、ご理解をしていただき、ありがとうございましたとお伝え願います。一中隊はまだまだ強くなれる。ありがとう。

令和六年三月十五日

三等陸佐　中尾　和也

着任の辞

はじめに、方面管内で起きた令和六年能登半島地震により犠牲になられた方々に心からお悔やみを申し上げるとともに被災された方々にお見舞い申し上げます。また、今日に至るまで災害派遣に従事してきた中隊の隊員に感謝の意を表する次第である。

改めてこの度、三月十八日付で第一中隊長に着任した藤村一尉である。十七年以上続く伝統ある第三通信大隊で勤務できることを誇りとし、誠心誠意努めさせてもらう所存であるのでよろしくお願いする。

現在、我が国を取り巻く安全保障環境は、依然として緊張感を増し、隣国においては、軍事活動を拡大・活発化させ、安全保障上の強い懸念となっている。そのため、通信科隊員においても新たな領域における能力強化のため、変革が求められていると認識している。

このような認識の下、統率方針を「任務完遂」とする。任務のために何が必要か考え、任務第一で行動し、完遂できるよう努力を共に傾注していく所存である。

また、任務完遂を具現化するため、次の一点を要望する。要望事項は「克己」である。

我々の究極の目的は敵に勝つことである。しかし、敵に勝つためには、まず自らを律し、己に打ち勝つ強さがなければ敵に勝つことはできない。自ら目標を持ち、妥協することなく弱い己を敵として打ち勝ってもらいたい。

また、識能の向上のみならず、仲間を思い、仲間のために自己欲を抑制することも克己であると考える。任務完遂のため、みんなで共に克己し、より良い中隊にしていきたいと思う。

以上、所信の一端を述べたが、自らも「克己」し、職務を遂行することを誓い、着任の辞とする。

令和六年三月十八日

第三通信大隊　第一中隊

一等陸尉　藤村　誠司

大隊長要望事項

「協働と自立」

一面　転入者紹介・挨拶

二面　第三通信大隊所属隊員によるコラム

転入者紹介

第三後方支援連隊から
三等陸曹
鈴木　健太

第三後方支援連隊から
一等陸曹
杉村　妙

中央基地
システム通信隊から
三等陸尉
金城　賢太朗

中部方面
システム通信群から
一等陸尉
藤村　誠司

西部方面
システム通信群から
一等陸尉
新　清孝

お願い

ご家庭で使用されるパソコンはウイルス対策ソフトを最新の状態にし、ファイル共有ソフト等は使用しないようにお願いします。

第3通信大隊所属隊員によるコラム

４月号テーマ
「教育を終えて」

本部管理中隊
三等陸尉
天野　将克

いきなりですが、皆さん「人事の目的」をご存じでしょうか。人事業務に携わっている方は、目にしたことがあると思いますが、そうでなければ見る機会も少ないと思います。恥ずかしながら私も入校して初めてその言葉に触れた一人です。

そこで、今回参加させて頂いた幹部特技課程「人事」教育の概要についてこの場を借りて紹介させて頂きたいと思います。

教育場所は、都心から電車で約四十分程の一橋学園駅近傍にある小平駐屯地で実施され、教育内容は任命権、補職、昇任・選抜、人事評価、昇給及び栄転等の座学を主体とする課目と実業務に通ずる総合実習、その他、心理、厚生関係類を学びます。また、教育は座学以外に、陸上幕僚監部への研修や小平駐屯地歴史館研修なども盛り込まれており、「人事の目的」を達成するための基礎を学びました。

私がその教育に参加して成果を得たと感じたことは、幹部自衛官として踏み出した一歩目として隊員の人生設計等について指導できる識能が修得できたこと、また、様々な職種・階級・年齢の隊員が一堂に会し学ぶことにより、多くの情報を共有できたこと、そして、課程主任、教官を含め全国に人事の人間関係が構築できたことです。

最後になりますが、この先様々な役職に就くと思いますが、本課程で学んだ識能とベテラン陸曹上がりの幹部としてこれまで培った経験を活かし「人事の目的」である部隊の人的戦闘力を維持・増進し、作戦を支援できるよう、今後の職務に邁進していきたいと思います。

第一中隊
三等陸曹
白川　雄一

第三十六普通科連隊で実施された、部隊格闘指導官養成訓練に参加してきました。教育では主に近接格闘における知識と技術について学びました。

また野外通信部隊においても必要不可欠な、普通科を基礎とした戦闘行動においても学ぶことができ、とても勉強になりました。

特に、教育中においては私自身の課題であった「マインドセット（意識の切り替え）」を常に意識して、突発的かつ流動的に変化する状況に対応した、戦闘行動を行えるように取り組みました。訓練全般を通して最後まで取り組むことができたのは、部隊の応援、養成訓練に参加されたた助教と、そこで出会った同期のおかげです。

今後は部隊において、教育中に修得した知識と技術を普及できるように取り組んでいきたいと考えています。そして大変素晴らしい訓練なので、大隊の隊員にどしどし参加を促していきたいと思います。

第二中隊
一等陸士
毒島　珠來

私は、令和六年一月から三月までの約三か月間、第三後方支援連隊で実施された「令和五年度初級らっぱ集合訓練」に参加し、らっぱ手の目的や技術及び知識を修得しました。特に教育期間を通して向上したと感じる事項が二点あります。

一点目は聴音です。聴音とは、音楽教育において耳だけで音程を判断し、五線譜に書き出すことを言います。聴音をすることにより正しい音程を理解できるようになり、らっぱを吹奏する際に音程の確認に役立ちました。

二点目はらっぱ吹奏です。楽器未経験だったので、最初は使用する音程を正しく出すことに苦労しました。しかし、日々の練成をしていく中で、音の出し方を理解していき最終的には全ての音程を出せるようになり、一曲全部を吹奏できるようになりました。

今後はらっぱ手として部隊に貢献できるように日々、練成を怠らず技術の向上に努めていきたいと思います。